



# Sun Fire™ X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーの Windows オペレーティングシステム インストールガイド

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

部品番号 820-0789-10  
2007 年 2 月、改訂 A

本書に関するコメントは、次の宛先までお送りください。 <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティーソフトウェア (フォントに関するテクノロジーを含む) は、著作権を有する当該各社より米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーが採用されています。

AMD Opteron は Advanced Microdevices, Inc. の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェイスは、米国 Sun Microsystems 社がユーザーおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェイスの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェイスに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

---

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

AMD Opteron est une marque de fabrique ou une marque déposée de Advanced Microdevices, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに xi

1. 概要 1

Windows Server 2003 のインストールについて 2

インストールに関する重要な考慮事項 2

サポートされている Windows オペレーティングシステム 3

Sun Fire X4600 シリーズプラットフォームに関する注意事項 4

2. インストール手順 5

3. サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード 7

4. 取得方法の選択 9

大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択 10

Windows Server 2003 のメディアの取得方法の選択 11

5. 大容量記憶装置ドライバ取得の準備 13

フロッピーディスクの作成 13

Windows を使用したフロッピーディスクの作成 14

Linux または Solaris を使用したフロッピーディスクの作成 18

フロッピーイメージファイルのコピー	20
Windows を使用したフロッピーイメージファイルのコピー	21
Linux または Solaris を使用したフロッピーイメージファイルのコピー	22
<b>6. JavaRConsole システムの設定</b>	<b>25</b>
JavaRConsole システムの要件	26
JavaRConsole システムのセットアップ	26
<b>7. Windows Server 2003 のインストール</b>	<b>31</b>
インストール要件	31
オペレーティングシステムのインストール	32
<b>8. 重要なシステム固有ドライバのアップデート</b>	<b>41</b>
システム固有ドライバのアップデート	41
AMD プロセッサドライバのアップデート	50
<b>9. RIS イメージへの Sun Fire ドライバの組み込み</b>	<b>65</b>
必要なドライバの確認	65
RIS イメージへのドライバの追加	66
索引	69



- 
- 図 5-1 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」ダイアログボックス 15
  - 図 5-2 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス 16
  - 図 5-3 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」のメッセージ 16
  - 図 5-4 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス 17
  - 図 6-1 URL の例 26
  - 図 6-2 「セキュリティの警告」ダイアログボックス 27
  - 図 6-3 ログイン画面 27
  - 図 6-4 ILOM GUI の「Version Information (バージョン情報)」画面 28
  - 図 6-5 ILOM GUI の「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」画面 28
  - 図 6-6 「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックス 29
  - 図 6-7 リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックス 29
  - 図 6-8 JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニュー 30
  - 図 7-1 F8 のプロンプト 33
  - 図 7-2 「Boot Device (起動デバイス)」メニュー 33
  - 図 7-3 追加デバイスの指定画面 35
  - 図 7-4 SCSI アダプタの選択画面 36
  - 図 7-5 追加デバイスの指定画面 36
  - 図 7-6 SCSI アダプタの選択画面 37
  - 図 7-7 追加デバイスの指定画面 38

図 7-8	Windows セットアップの起動画面	38
図 7-9	セットアップの選択画面	39
図 7-10	ディスクの取り出しメッセージ	39
図 8-1	ドライバアップデートパッケージのセットアップダイアログボックス	42
図 8-2	「Microsoft .NET Framework」ダイアログボックス	42
図 8-3	「License Agreement (使用許諾契約書)」ダイアログボックス	43
図 8-4	「Installing Components (コンポーネントのインストール)」ダイアログボックス	44
図 8-5	インストール完了のダイアログボックス	44
図 8-6	ドライバアップデートパッケージのセットアップウィザードダイアログボックス	45
図 8-7	「Select Installation Folder (インストールフォルダの選択)」ダイアログボックス	46
図 8-8	「Confirm Installation (インストールの確認)」ダイアログボックス	47
図 8-9	AMD-8131 PCI Express HyperTransport Tunnel ドライバのダイアログボックス	47
図 8-10	ドライバアップデートパッケージ情報のダイアログボックス	48
図 8-11	「Installation Complete (インストール完了)」ダイアログボックス	49
図 8-12	「Setup Succeeded (セットアップ成功)」ダイアログボックス	49
図 8-13	「プロセッサ」が展開された状態の「デバイスマネージャ」ウィンドウ	50
図 8-14	「ハードウェアの更新ウィザードの開始」ダイアログボックス	51
図 8-15	「ハードウェアの更新ウィザード」ダイアログボックス	52
図 8-16	「ハードウェアの更新ウィザード」の検索オプションのダイアログボックス	53
図 8-17	「ハードウェアの更新ウィザード」のドライバ選択のダイアログボックス	54
図 8-18	「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックス	54
図 8-19	「ファイルの場所」ダイアログボックス	55
図 8-20	「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックス	55
図 8-21	デバイスドライバ選択のダイアログボックス	56
図 8-22	「ハードウェアの更新ウィザードの完了」ダイアログボックス	57
図 8-23	「システム設定の変更」ダイアログボックス	57
図 8-24	「プロセッサ」が展開された状態の「デバイスマネージャ」ウィンドウ	58
図 8-25	「ハードウェアの更新ウィザードの開始」ダイアログボックス	59
図 8-26	「ハードウェアの更新ウィザード」ダイアログボックス	59
図 8-27	「ハードウェアの更新ウィザード」の検索オプションのダイアログボックス	60

- 図 8-28 「ハードウェアの更新ウィザード」のドライバ選択のダイアログボックス 61
- 図 8-29 「ハードウェアの更新ウィザードの完了」ダイアログボックス 62
- 図 8-30 「システム設定の変更」ダイアログボックス 62





# 表

---

表 4-1	大容量記憶装置ドライバの取得方法	10
表 4-2	Windows Server 2003 のメディアの取得方法	11
表 5-1	大容量記憶装置ドライバの取得方法	13
表 7-1	各インストール方法の要件	32
表 9-1	Sun Fire X4600 シリーズサーバー RIS に必要なサーバー固有ドライバ	65



# はじめに

---

この『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』では、Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーに Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。

本書の情報は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

---

## 関連ドキュメント

Sun Fire X4600 シリーズサーバーのドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、ご使用の製品のページに移動してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Sun Fire X4600 M2 サーバーに関連するドキュメントについては、次のページを参照してください。

[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64\\_servers/x4600m2/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64_servers/x4600m2/index.html)

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

---

## UNIX コマンドの使い方

本書には、基本的な UNIX<sup>®</sup> コマンドや、システムのシャットダウンや起動、デバイスの設定などの手順に関する情報は含まれていないことがあります。このような情報については、次のマニュアルを参照してください。

- システムに付属のソフトウェアマニュアル
- 次の場所にある Solaris<sup>™</sup> オペレーティングシステムのドキュメント

<http://docs.sun.com>

---

## サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

---

## 表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	<code>dir</code> を使用してすべてのファイルを表示します。
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	> <b>ipconfig</b> Password:
AaBbCc123	新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、管理者権限が必要です。 ファイルを削除するには、 <code>del &lt;ファイル名&gt;</code> と入力します。
AaBbCc123	ダイアログボックスのタイトル、ダイアログボックス内のテキスト、オプション、メニュー項目、およびボタン。	1. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

\* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

---

## コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』、部品番号 820-0789-10



## 概要

---

本書は、特に説明がない限り、Sun Fire™ X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

この章では、Sun Fire X4600 シリーズサーバーに Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする前に知っておく必要のある情報について説明します。

---

**注** – この章には、インストール処理中に役立つ重要なガイドラインおよび情報が記載されています。Windows Server 2003 のインストールを開始する前に、必ずこの章の残りの部分に目を通してください。

---

この章には次のセクションがあります。

- 2 ページの「Windows Server 2003 のインストールについて」
- 2 ページの「インストールに関する重要な考慮事項」
- 3 ページの「サポートされている Windows オペレーティングシステム」
- 4 ページの「Sun Fire X4600 シリーズプラットフォームに関する注意事項」

第 2 章では、Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストールを完了するために実行する必要がある手順を説明しています。

---

# Windows Server 2003 のインストールについて

Sun Fire X4600 シリーズサーバーには、Windows Server 2003 オペレーティングシステムに付属していないサーバー固有のドライバが追加が必要です。本書の以降の章で、オペレーティングシステムおよびドライバへのアクセス方法、ならびにこれらのインストール方法を説明しています。このインストール手順は、32 ビットおよび 64 ビット両方のバージョンの Microsoft Windows Server 2003 で実行できます。

---

## インストールに関する重要な考慮事項

Sun Fire X4600 シリーズサーバーへの Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な考慮事項について検討してください。

- Windows オペレーティングシステムをインストールすると、プリインストールされているオペレーティングシステムを含め、起動ドライブのすべてのデータが上書きされます。
- インストール時に最も注意すべき点は、Sun Fire X4600 シリーズサーバーで使用されているディスクコントローラ用に、大容量記憶装置ドライバをインストールすることです。Microsoft Windows Server 2003 のメディアには、オペレーティングシステムのインストールに必要な大容量記憶装置ドライバが収録されていません。

Windows の場合、フロッピーディスクデバイスを介して大容量記憶装置ドライバを取得する必要があります。Windows のインストールプログラムでは、フロッピードライブ A からしか大容量記憶装置ドライバを読み込めません。大容量記憶装置ドライバの取得に関しては、CD や DVD、または USB フラッシュドライブなど、他のデバイスはサポートされていません。

Windows Server 2003 のインストール用のドライバを利用するには、次の 3 つの方法があります。

- Sun Fire サーバーに接続された物理 USB フロッピードライブを使用します。
- RKVMS<sup>1</sup> を使用して、JavaRConsole<sup>2</sup> (JavaRConsole システム) が動作している別のシステムの物理フロッピードライブにフロッピーデバイスをリダイレクトします。

---

1. RKVMS-リモートのキーボード、ビデオ、マウス、ストレージ。ネットワークに接続されたシステムを介して、サーバーのキーボード、ビデオ出力、マウス、およびストレージデバイスのリダイレクトを可能にします。

2. JavaRConsole-ネットワークに接続されたシステムから実行されるリモートコンソール。



- RKVMS を使用して、JavaRConsole が動作している別のシステムのフロッピーイメージファイルにフロッピーデバイスをリダイレクトします。
- また、インストール用の Windows Server 2003 のメディアを、次の 3 つの方法で利用することもできます。
  - Sun Fire サーバーに接続された物理 DVD/CD ドライブを使用します。
  - RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの物理 CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。
  - RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの Windows CD イメージに CD ドライブをリダイレクトします。

第 2 章に記載されているインストール手順に従うと、大容量記憶装置ドライバおよびオペレーティングシステムのメディアのインストール方法を選択できます。

---

**注** – これらのインストールのいずれかで RKVMS を利用する方法を使用する場合は、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』（部品番号 819-6808）で、インストールに必要なハードウェアのセットアップの詳細を参照する必要があります。

---

## サポートされている Windows オペレーティングシステム

本書の発行時点で、Sun Fire X4600 シリーズサーバーは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2003、SP1 以降、Standard Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、SP1 以降、Enterprise Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、Standard x64 Edition (64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、Enterprise x64 Edition (64 ビット)

サポートされているオペレーティングシステムの最新のリストは、次の URL で参照できます。

Sun Fire X4600 サーバーの場合

<http://www.sun.com/servers/x64/x4600/os.jsp>

---

# Sun Fire X4600 シリーズプラットフォームに関する注意事項

本書は Sun Fire X4600 シリーズサーバーを対象としています。インストールは、製品プラットフォームによって部分的に異なります。

- 本書では、ツールとドライバの CD とリソース CD は同じ意味で使用されています。リソース CD 705-1438-11（またはそれ以降のバージョン）には、前のバージョンの Sun Fire X4600 サーバー用のドライバが収録されています。
- 本書の一部のスクリーンキャプチャには、Sun Fire X4100/X4200 という表示がありますが、特に説明のない限り、これらの画像は Sun Fire X4600 シリーズサーバーにも該当します。

## インストール手順

---

この章は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

この章では、Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールするために実行する手順の概要を説明します。

---

**注** – Preboot Execution Environment (PXE) サーバーを使用して Windows Server 2003 をインストールする予定の場合は、[第 9 章 65 ページの「RIS イメージへの Sun Fire ドライバの組み込み」](#)を参照してください。

---

CD メディアから Sun Fire X4600 シリーズサーバーに Windows をインストールする場合は、次の手順をこの順序で実行します。

1. [サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード](#) (第 3 章を参照)。
2. [取得方法の選択](#) (第 4 章を参照)。
3. [大容量記憶装置ドライバ取得の準備](#) (第 5 章を参照)。
4. [JavaRConsole システムの設定](#) (必要に応じて。第 6 章を参照)。
5. [Windows Server 2003 のインストール](#) (第 7 章を参照)。
6. [重要なシステム固有ドライバのアップデート](#) (第 8 章を参照)。

これらの手順を完了すると、Windows Server 2003 オペレーティングシステムを正常にインストールできているはずです。



## サーバー固有のドライバパッケージ のダウンロード

---

この章は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

この章では、Windows Server 2003 のインストールに必要なサーバー固有のドライバパッケージをダウンロードする方法について説明します。

---

**注** – ツールとドライバの CD (またはリソース CD 705-1438-11 以降) がある場合は、この章をスキップして、[第 4 章](#)に進みます。この CD は、サーバー固有のドライバを最初にインストールするときに使用できます。

---

次に、Windows Server 2003 のインストールに使用できるサーバー固有のドライバパッケージを示します。

- FloppyPack.zip (LSI 1064 ドライバおよび AMI 仮想フロッピードライバを含む)
- DriverUpdatePackage.exe (システム固有のデバイスドライバすべてをインストールするためのプログラム)
- DriverPack.zip (上級者のみ、Windows Server 2003 のシステム固有のドライバアーカイブ、英語)。[第 9 章](#)で説明する PXE インストールを実行する場合は、このファイルをダウンロードします。

---

**注** – ドライバパッケージの完全な名前では、ファイル拡張子の前にバージョン番号が含まれています。たとえば、FloppyPack\_1\_1\_2.zip のようになります。本書では、この番号をファイル名から削除して、わかりやすくしています。

---

ドライバをダウンロードするには、次の手順に従います。

1. ドライバのダウンロードサイトに移動します。

Sun Fire X4600 シリーズサーバーの場合：

<http://www.sun.com/servers/entry/x4600/downloads.jsp>

2. 次の手順のいずれかに従います。

- Windows Server 2003 のメディアをインストールする場合は、インストール中にアクセスできるハードドライブまたはメディアに、FloppyPack.zip および DriverUpdatePackage.exe の両方のファイルをダウンロードします。
- PXE サーバーを使用して Windows Server 2003 をインストールする場合（上級者向けインストール）は、PXE サーバーに DriverPack.zip ファイルをダウンロードします。

---

**注** – ドライバパッケージの完全な名前では、ファイル拡張子の前にバージョン番号が含まれています。たとえば、FloppyPack\_1\_1\_2.zip のようになります。本書では、この番号をファイル名から削除して、わかりやすくしています。

---

3. オペレーティングシステムのインストールを開始するときに、ドライバパッケージが利用できる状態にあることを確認します。第 4 章に進み、取得方法を選択します。

## 取得方法の選択

---

この章は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

この章では、インストール用の大容量記憶装置ドライバおよび Windows のメディアの取得方法を決定します。

大容量記憶装置ドライバのメディアおよび Windows Server 2003 のメディアの取得方法を選択するには、次の手順を完了します。

1. [大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択](#)。
2. [Windows Server 2003 のメディアの取得方法の選択](#)。
3. 選択した取得方法をメモしてから、[第 5 章](#)に進みます。

# 大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択

Sun Fire X4600 シリーズサーバーでの Windows Server 2003 のインストール用の大容量記憶装置ドライバを準備する場合は、次の 3 つの方法を使用できます。

- **フロッピーローカル**: Sun Fire サーバーに接続された物理 USB フロッピードライブを使用します。
- **フロッピーリモート**: RKVMS を使用して、JavaRConsole が動作しているシステムの物理フロッピードライブにフロッピーデバイスをリダイレクトします。
- **フロッピーイメージ**: RKVMS を使用して、JavaRConsole が動作しているシステムのフロッピーイメージファイルにフロッピーデバイスをリダイレクトします。

表 4-1 で、自分の環境の必要性に合った方法を選択します。選択した方法をメモしておいてください。

表 4-1 大容量記憶装置ドライバの取得方法

大容量記憶装置ドライバの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
フロッピーローカル	<ul style="list-style-type: none"><li>• 次の Windows Marketplace サイトで「Designed for Windows」* と表示されている外部 USB フロッピードライブ: <a href="http://testedproducts.windowsmarketplace.com/">http://testedproducts.windowsmarketplace.com/</a></li><li>• フロッピーディスク</li></ul>	簡単
フロッピーリモート	<ul style="list-style-type: none"><li>• Sun Fire X4600 シリーズサーバー管理ネットワークポートおよび接続されているフロッピードライブへのネットワークアクセスが可能な JavaRConsole システム</li><li>• フロッピーディスク</li></ul>	中レベル: インストールにかかる時間は、フロッピーローカルの方法よりもわずかに長くなります。
フロッピーイメージ	<ul style="list-style-type: none"><li>• Sun Fire X4600 シリーズサーバー管理ネットワークポートへのネットワークアクセスが可能な JavaRConsole システム</li></ul>	中レベル: インストールにかかる時間は、フロッピーローカルの方法よりもわずかに長くなります。

\* Windows 専用の USB フロッピードライブを使用しないと、OS のインストール中にドライバがインストールされるように見えませんが、システムをリポートすると、Windows セットアップのグラフィック部分でドライバを再度見つけることができず、エラーメッセージが表示されてインストールが失敗に終わります。



# Windows Server 2003 のメディアの取得方法の選択

Sun Fire X4600 シリーズサーバーでの Windows Server 2003 のインストール用の Windows のメディアを準備する場合は、次の 3 つの方法を使用できます。

- *Windows ローカル*: Sun Fire サーバーに接続された物理 DVD/CD ドライブを使用します。
- *Windows リモート*: RKVMS を使用して、JavaRConsole が動作しているシステムの物理 CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。
- *Windows イメージ*: RKVMS を使用して、JavaRConsole が動作しているシステムの Windows メディアイメージファイルに CD ドライブをリダイレクトします。

表 4-2 で、自分の環境の必要性に合った方法を選択します。選択した方法をメモしておいてください。

表 4-2 Windows Server 2003 のメディアの取得方法

大容量記憶装置ドライブの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
Windows ローカル	なし*	簡単
Windows リモート	Sun Fire X4600 シリーズサーバー管理ネットワークポートおよび接続されている CD/DVD ドライブへのネットワークアクセスが可能な JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。
Windows イメージ	Sun Fire X4600 シリーズサーバー管理ネットワークポートへのネットワークアクセスが可能な JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。

\* 使用中のシステムに DVD/CD ドライブがない場合は、外部 USB DVD/CD ドライブを Sun Fire X4600 シリーズサーバーに接続して、Windows ローカルの取得方法を使用する必要があります。DVD/CD ドライブは、Windows Marketplace サイト (<http://testedproducts.windowsmarketplace.com/>) で「Designed for Windows」と表示されているものである必要があります。



## 大容量記憶装置ドライバ取得の準備

この章は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

この章では、Windows Server 2003 のインストールに必要な大容量記憶装置ドライバのメディアを準備するための手順について説明します。

第 4 章で選択した方法に応じて、この章で説明する次のいずれかの手順に従います。表 5-1 を参照してください。

表 5-1 大容量記憶装置ドライバの取得方法

取得方法	説明のあるセクション
フロッピーローカル	<a href="#">フロッピーディスクの作成</a>
フロッピーリモート	<a href="#">フロッピーディスクの作成</a>
フロッピーイメージ	<a href="#">フロッピーイメージファイルのコピー</a>

## フロッピーディスクの作成

取得方法がフロッピーローカルまたはフロッピーリモートの場合、Windows のインストールを続行する前に、ドライバが保存されたフロッピーディスクを作成する必要があります。

次のシステム設定および材料がすぐに使用できる状態であることを確認してください。

- フロッピーデバイスが接続されたシステム
- フロッピーディスク
- FloppyPack.zip (このパッケージへのアクセスの詳細については、[第 3 章](#)を参照)

使用中のシステムに対応するセクションの手順に従って、フロッピーディスクを作成します。

- [Windows を使用したフロッピーディスクの作成](#)
- [Linux または Solaris を使用したフロッピーディスクの作成](#)

## Windows を使用したフロッピーディスクの作成

Windows システムを使用してフロッピーディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. フロッピーディスクの作成に使用するシステムにドライバパッケージをコピーします。
- ツールとドライバの CD（またはリソース CD）を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順でファイルをコピーします。
  - a. ツールとドライバの CD を、フロッピーデバイスを搭載した Windows システムに挿入します。
  - b. 次のディレクトリに移動します。

```
support\drivers\w2k3sp1\FloppyPack
```

---

**注** – ドライバパッケージの完全な名前では、ファイル拡張子の前にバージョン番号が含まれています。たとえば、FloppyPack\_1\_1\_2.zip のようになります。本書では、この番号をファイル名から削除して、わかりやすくしています。

---

- c. ファイルを Windows システムのディレクトリにコピーします。
- ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順でファイルをコピーし、解凍します。
  - a. Microsoft Windows ソフトウェアが動作していて、フロッピーデバイスが搭載されているシステムで、FloppyPack.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
  - b. Windows エクスプローラを起動します。
  - c. ダウンロードしたファイルを保存したフォルダに移動します。
  - d. FloppyPack.zip を選択します。
  - e. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。<sup>1</sup>

---

1. 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダが元々サポートされていない場合は、サードパーティーのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を解凍します。解凍後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

- f. ファイルを新しい（空の）フォルダに解凍します。
2. 「[自動作成の実行](#)」または「[手動作成の実行](#)」を参照して、フロッピーディスクを作成します。

### 自動作成の実行

この方法によって、フロッピーディスクの作成が自動化されます。

自動作成を実行するには、次の手順に従います。

1. 書き込み可能なフロッピーディスクをシステムのフロッピードライブに挿入します。
2. Windows エクスプローラを起動し、解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
3. Windows エクスプローラで、解凍されたファイルのあるディレクトリを開き、`mkfloppy.exe` をダブルクリックします。

---

**注** – アプリケーションが起動しない場合は、`mkfloppy.exe` アプリケーションと同じフォルダにある `README.RTF` ファイルを確認してください。

---

「Create Installation Floppy（インストールフロッピーディスクの作成）」ダイアログボックスが表示されます。

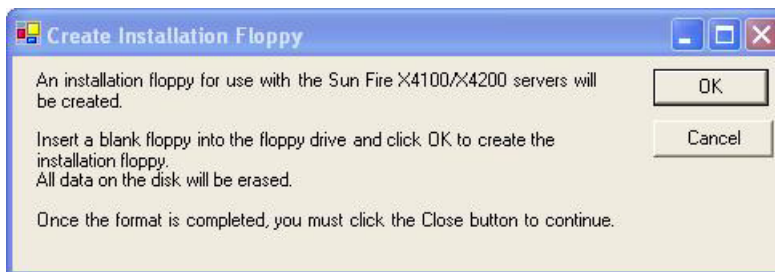


図 5-1 「Create Installation Floppy（インストールフロッピーディスクの作成）」ダイアログボックス

4. 「OK」をクリックします。  
「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスが表示されます。

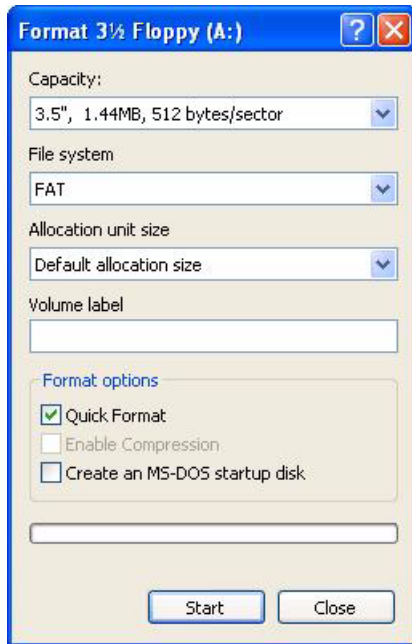


図 5-2 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」 ダイアログボックス

5. フロッピーディスクをフォーマットするための設定を指定し、「開始」をクリックします。

この手順では、「クイックフォーマット」で問題ありません。

6. フォーマットが終了したら、「閉じる」をクリックします。

フロッピーにファイルをコピーしていることを示すメッセージが「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」ダイアログボックスに表示されます。

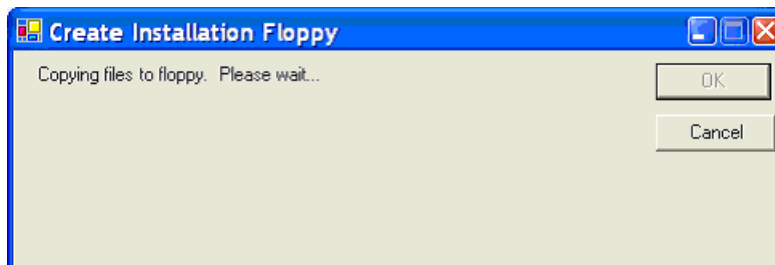


図 5-3 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」のメッセージ

7. ファイルがコピーされたら、「OK」をクリックします。  
大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクが作成されます。
8. 第6章に進みます。

### 手動作成の実行

この方法では、フロッピーディスクの作成に必要な各手順をユーザーが実行する必要があります。

手動作成を実行するには、次の手順に従います。

1. 書き込み可能なフロッピーディスクをフロッピードライブに挿入します。
2. Windows エクスプローラを起動します。
3. フロッピーディスクを挿入したフロッピードライブを右クリックします。  
ショートカットメニューが表示されます。
4. 「フォーマット」を選択します。  
「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスが表示されます。

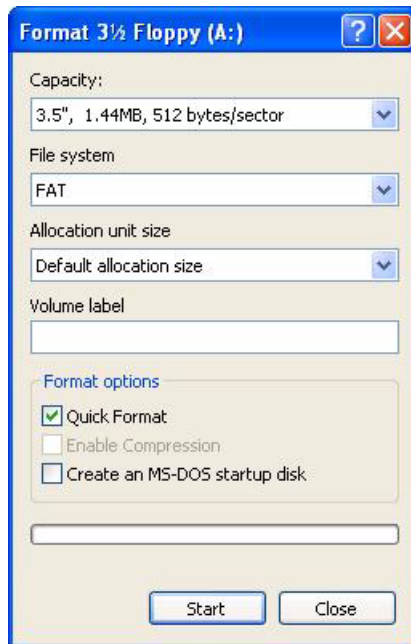


図 5-4 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス

5. フロッピーディスクをフォーマットするための設定を指定し、「開始」をクリックします。  
この手順では、「クイックフォーマット」で問題ありません。
6. フォーマットが終了したら、「閉じる」をクリックします。
7. 解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
8. 「編集」メニューの「すべて選択」をクリックします。
9. マウスの左ボタンを押したまま、選択したファイルをフロッピードライブにドラッグ & ドロップします。<sup>2</sup>  
大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクが作成されます。
10. 第 6 章に進みます。

## Linux または Solaris を使用したフロッピーディスクの作成

次に、Linux または Solaris システムを使用してフロッピーディスクを作成する場合の手順を示します。

Linux または Solaris システムを使用してフロッピーディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. フロッピーディスクの作成に使用するシステムにドライバパッケージをコピーします。
  - ツールとドライバの CD (またはリソース CD) を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順に従います。
    - a. /tmp/files ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp/files
```
    - b. CD をシステムに挿入し、必要に応じて CD をマウントします。
    - c. 次の例に示すように、ツールとドライバの CD の FloppyPack ディレクトリに移動します。

```
% cd /mnt/cdrom/support/drivers/w2k3sp1/FloppyPack
```

フォルダにはバージョン番号も含まれています。

---

2. Winzip を使用してファイルを解凍した場合は、ディレクトリ構造が保持されないので、ファイルをドラッグ & ドロップしないでください。



- d. ツールとドライブの CD から `/tmp/files` ディレクトリにファイルをコピーします。  
% **cp -r \* /tmp/files**
- ダウンロードサイトから `FloppyPack.zip` をダウンロードした場合は、次の手順に従います。
  - a. `/tmp` ディレクトリを作成します。  
% **mkdir /tmp**
  - b. 次の手順のいずれかに従います。
    - ドライブをメディアにコピーした場合
      - i. メディアをシステムに挿入します。
      - ii. メディアをマウントします。
      - iii. 次の例に示すように、ファイルをシステムにコピーします。  
% **cp directory/FloppyPack\_1\_1\_1.zip /tmp**  
*directory* には、`FloppyPack.zip` ファイルをコピーしたメディア上のディレクトリを指定します。
    - ファイルを直接システムにダウンロードした場合
      - i. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。
      - ii. 次の例に示すように、ファイルを `/tmp` ディレクトリにコピーします。  
% **cp directory/FloppyPack\_1\_1\_1.zip /tmp**  
*directory* には、`FloppyPack.zip` ファイルをダウンロードしたシステム上のディレクトリを指定します。
  - c. `/tmp` ディレクトリに移動します。  
% **cd /tmp**
  - d. `FloppyPack.zip` ファイルを解凍します。  
次に例を示します。  
% **unzip FloppyPack\_1\_1\_1.zip**  
これによって、新しい `files` ディレクトリが作成されます。
2. `files` ディレクトリに移動します。  
% **cd /tmp/files**
3. 書き込み可能なフォーマット済みフロッピーディスクをフロッピードライブに挿入します。

4. フロッピーをシステムにマウントします。

使用中のオペレーティングシステムに応じて、次の例を参照してください。

Solaris:

```
% volcheck
```

Linux:

```
% mkdir /mnt/floppy
```

```
% mount /dev/fd0 /mnt/floppy
```

5. files ディレクトリのファイルおよびフォルダをフロッピーディスクにコピーします。

使用中のオペレーティングシステムに応じて、次の例を参照してください。

Solaris:

```
% cp -r * /floppy/floppy0
```

Linux:

```
% cp -r * /mnt/floppy
```

6. [第 6 章](#)に進みます。

---

## フロッピーイメージファイルのコピー

大容量記憶装置ドライバのインストール方法としてフロッピーイメージを選択した場合は、この手順に従います。

JavaRConsole システムでドライバファイルが適切に動作することを確認してください。このシステムは、ドライバのダウンロードサイトからダウンロードした、またはツールとドライバの CD（またはリソース CD 705-1438-11 以降）に収録されている FloppyPack.zip ドライバパッケージにアクセスする必要があります。パッケージのダウンロードについては、「[サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード](#)」で説明しています。

JavaRConsole システムで実行中のオペレーティングシステムに応じた手順を選択してください。

- [Windows を使用したフロッピーイメージファイルのコピー](#)
- [Linux または Solaris を使用したフロッピーイメージファイルのコピー](#)

# Windows を使用したフロッピーイメージファイルのコピー

Windows システムを使用してフロッピーディスクイメージファイルを作成するには、次の手順に従います。

1. ドライバファイルを準備します。
  - ツールとドライバの CD（リソース CD）を使用してフロッピーパッケージにアクセスする場合は、次の手順に従います。
    - a. CD を JavaRConsole システムに挿入します。
    - b. 次のディレクトリに移動します。

```
support\drivers\w2k3sp1\FloppyPack
```

フォルダにはバージョン番号も含まれています。
  - ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順でファイルをコピーし、解凍します。
    - a. FloppyPack.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
    - b. Windows エクスプローラを起動します。
    - c. ダウンロードしたファイルを保存した一時フォルダに移動します。
    - d. FloppyPack.zip を選択します。
    - e. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。<sup>3</sup>
    - f. 解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
2. image フォルダに移動します。
3. インストール中に使用できるシステム上のフォルダに floppy.img ファイルをコピーします。
4. floppy.img ファイルの場所をメモしてから、第 6 章に進みます。

---

3. 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダが元々サポートされていない場合は、サードパーティーのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を解凍します。解凍後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

# Linux または Solaris を使用したフロッピーイメージファイルのコピー

1. ドライバファイルを準備します。
  - ツールとドライバの CD (またはリソース CD) を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順に従います。
    - a. JavaRConsole システム上に `/tmp/files` ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp/files
```
    - b. CD を JavaRConsole システムに挿入し、必要に応じて CD をシステムにマウントします。
    - c. 次の例に示すように、ツールとドライバの CD の `FloppyPack` ディレクトリに移動します。

```
% cd /mnt/cdrom/support/drivers/w2k3sp1/FloppyPack
```

フォルダにはバージョン番号も含まれています。
    - d. ツールとドライバの CD から JavaRConsole システム上の `/tmp/files` ディレクトリにファイルをコピーします。

```
% cp -r * /tmp/files
```
  - ダウンロードサイトから `FloppyPack.zip` をダウンロードした場合は、次の手順でファイルを解凍します。
    - a. JavaRConsole システム上に `/tmp` ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp
```
    - b. 次の手順のいずれかに従います。
      - ドライバをメディアにコピーした場合
        - i. メディアをシステムに挿入します。
        - ii. 必要に応じて、メディアをシステムにマウントします。
      - iii. 次の例に示すように、ファイルを JavaRConsole システムにコピーします。

```
% cp directory/FloppyPack_1_1_1.zip /tmp
```

`directory` には、`FloppyPack.zip` ファイルをコピーしたメディア上のディレクトリを指定します。

- ファイルを直接 JavaRConsole システムにダウンロードした場合
  - i. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。
  - ii. 次の例に示すように、ファイルを /tmp ディレクトリにコピーします。

```
% cp directory/FloppyPack_1_1_1.zip /tmp
```

*directory* には、FloppyPack.zip ファイルをダウンロードした JavaRConsole システム上のディレクトリを指定します。
  - c. /tmp ディレクトリに移動します。

```
% cd /tmp
```
  - d. FloppyPack.zip ファイルを解凍します。

次に例を示します。

```
% unzip FloppyPack_1_1_1.zip
```

これによって、新しい files ディレクトリが作成されます。
- 2. files フォルダに移動します。

```
% cd /tmp/files
```
- 3. image フォルダに移動します。
- 4. インストール中に使用できるシステム上の場所に floppy.img ファイルをコピーします。
- 5. floppy.img ファイルの場所をメモしてから、[第 6 章](#)に進みます。

Windows Server 2003 のインストール中にこの場所が必要になります。



## JavaRConsole システムの設定

---

この章は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

この章では、オペレーティングシステムのインストール用に大容量記憶装置ドライバおよび Windows Server 2003 のメディアを取得するために JavaRConsole システムをセットアップする方法について説明します。

---

**注** - 第 4 章でフロッピーローカルおよび Windows ローカルの両方の取得方法を選択した場合は、第 7 章に進みます。

---

- 第 4 章で説明した次の大容量記憶装置ドライバまたは Windows のメディアの取得方法のいずれかを選択した場合は、JavaRConsole システムをセットアップする必要があります。
  - フロッピーリモート
  - フロッピーイメージ
  - Windows リモート
  - Windows イメージ

---

**注** - この手順では、JavaRConsole ハードウェアのセットアップに関する詳細は説明しません。詳細については、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』(部品番号 819-6808) を参照してください。

---

## JavaRConsole システムの要件

次に、JavaRConsole システムの要件を示します。

- Solaris、Linux、または Windows オペレーティングシステムがインストールされていること。
- Sun Fire X4600 シリーズのイーサネット管理ポートにアクセスできるネットワークにシステムが接続されていること。
- Java ランタイム環境 (JRE) 1.5 以降がインストールされていること。
- JavaRConsole システムで Solaris を実行している場合は、JavaRConsole が物理フロッピードライブおよび CD/DVD-ROM ドライブ、またはその両方にアクセスできるように、ボリューム管理を無効にしていること。
- JavaRConsole システムで Windows Server を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にしていること。

---

**注** – この手順では、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』(部品番号 819-6808) の手順に従って JavaRConsole システムおよび ILOM サービスプロセッサがセットアップされていることを前提としています。

---

## JavaRConsole システムのセットアップ

1. Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサの IP アドレスを JavaRConsole システムのブラウザに入力して、リモートコンソールアプリケーションを起動します。

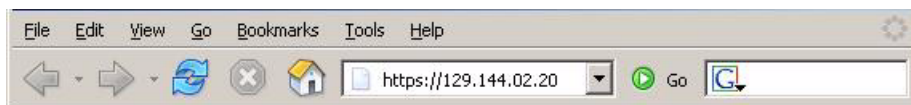


図 6-1 URL の例

「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されます。



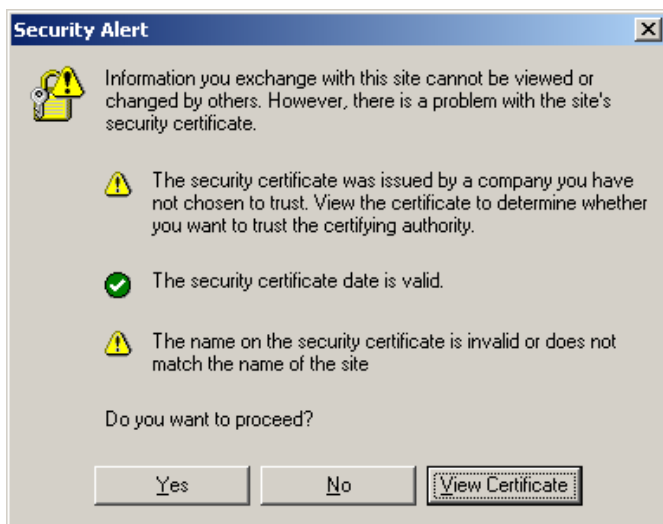


図 6-2 「セキュリティの警告」ダイアログボックス

2. 「はい」 をクリックします。  
ILOM のログイン画面が表示されます。

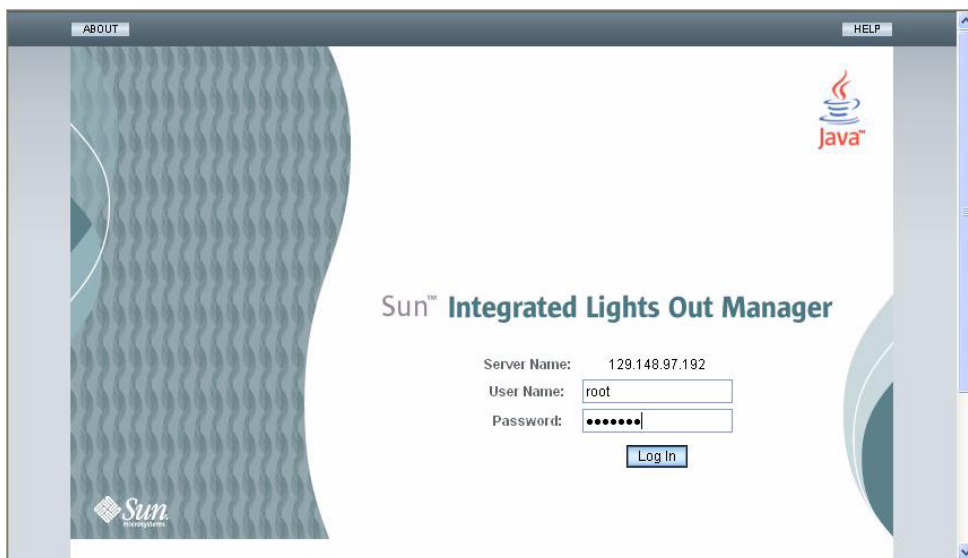


図 6-3 ログイン画面

3. ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In (ログイン)」をクリックします。  
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。  
ILOM の「Version Information (バージョン情報)」画面が表示されます。

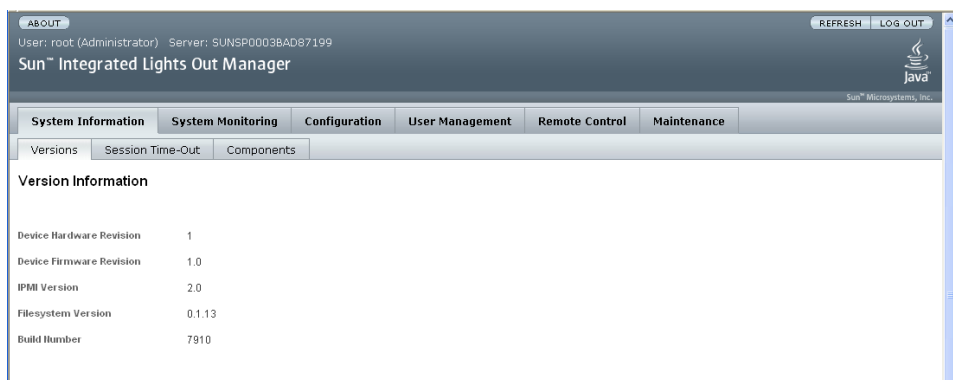


図 6-4 ILOM GUI の「Version Information (バージョン情報)」画面

4. ILOM GUI で「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。  
「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」画面が表示されます。

---

**注** – 「Mouse Mode Settings (マウスモード設定)」タブでマウスモードが Absolute (絶対) モードに設定されていることを確認します。

---

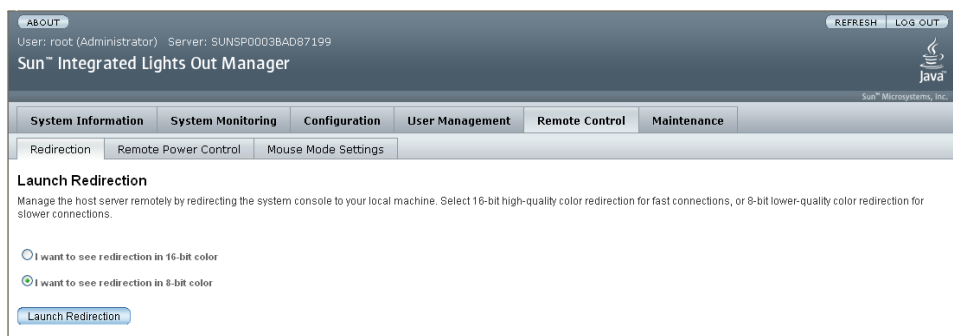


図 6-5 ILOM GUI の「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」画面

5. 8 ビットカラーまたは 16 ビットカラーをクリックしてから、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックします。

**注** - JavaRConsole システムのリダイレクトに Windows システムを使用している場合は、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックしたあとに、警告がもう 1 つ表示されます。「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスが表示されたら、「Yes (はい)」ボタンをクリックします。



図 6-6 「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックス

リモートコントロールのダイアログボックスが表示されます。

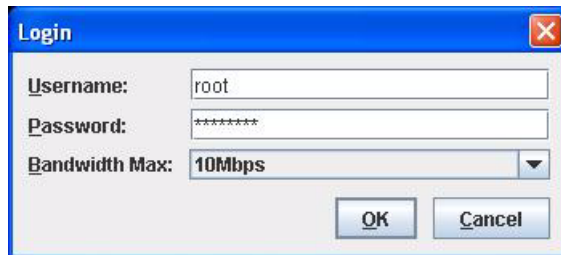


図 6-7 リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックス

6. リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックスにユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

デフォルトのユーザー名は **root**、パスワードは **changeme** です。

正常にログインすると、JavaRConsole 画面が表示されます。

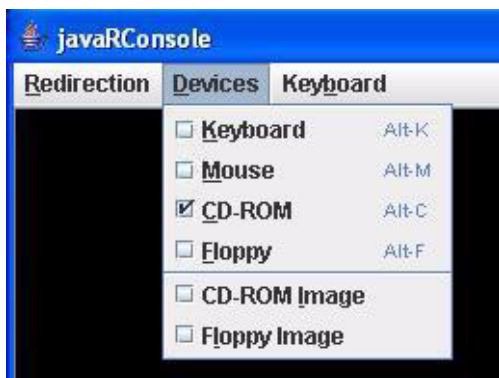


図 6-8 JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニュー

7. 選択した取得方法に応じて、「Devices (デバイス)」メニューからフロッピー項目または CD 項目を 1 つ、あるいはその両方を選択します。
- **フロッピーリモート**: JavaRConsole システムに接続された物理フロッピードライブのコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy (フロッピー)」を選択します。
  - **フロッピーイメージ**: JavaRConsole システム上に保存された大容量記憶装置ドライブのフロッピーイメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy Image (フロッピーイメージ)」を選択します。
  - **CD-ROM リモート**: JavaRConsole システムに接続された CD/DVD-ROM ドライブに挿入されたオペレーティングシステムソフトウェア CD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。
  - **CD-ROM イメージ**: JavaRConsole システム上に保存されたオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択します。

---

**注意** - CD-ROM リモートまたは CD-ROM イメージのオプションを使用して Windows Server 2003 をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするので、インストールの実行にかかる時間が大幅に長くなります。インストールにかかる時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。

---

## Windows Server 2003 のインストール

---

この章は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

この章では、Windows Server 2003 のメディアを使用して、Sun Fire X4600 シリーズサーバーに直接 Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。

---

### インストール要件

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の要件を満たしていることを必ず確認してください。

対象：すべてのインストール方法

- 本書の前の章に記載されている手順をすべて実行します。
- Sun Fire X4600 シリーズサーバーの適切なコネクタにキーボードとマウスが取り付けられていることを確認します。フロッピーローカルによる大容量記憶装置ドライバのインストールを選択した場合は、背面の USB ポートを空けておきます。
- オペレーティングシステムのインストールについての個別の詳細情報について、Microsoft Windows のドキュメントを参照します。

---

**注** – Microsoft Windows オペレーティングシステムの全インストールプロセスについては、このセクションでは説明していません。このセクションでは、Sun Fire X4600 シリーズサーバーに Windows Server 2003 をインストールする場合に該当する手順のみを説明しています。

---

選択した大容量記憶装置ドライバおよび Windows のメディアの取得方法に固有の要件については、表 7-1 を参照してください。

表 7-1 各インストール方法の要件

方法	必要な操作または項目
フロッピーローカル	USB フロッピードライブをサーバーの背面に接続し、そのフロッピードライブに大容量記憶装置フロッピーディスクを挿入します。 注：USB フロッピードライブをサーバーの前面にある USB コネクタに接続すると、インストールがエラーになります。
フロッピーリモート	フロッピードライブを（必要に応じて）JavaRConsole システムに接続し、そのフロッピーディスクドライブに大容量記憶装置ドライブのフロッピーディスクを挿入します。
フロッピーイメージ	JavaRConsole システムから floppy.img ファイルにアクセスできることを確認します。
Windows ローカル	Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアと DVD-ROM ドライブが使用できる状態にあることを確認します。
Windows リモート	JavaRConsole システムの CD または DVD-ROM ドライブに Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアを挿入します。
Windows イメージ	JavaRConsole システムから Windows Server 2003 のインストールメディアにアクセスできることを確認します。

\* USB フロッピードライブのリスト  
(Windows Marketplace サイト <http://testedproducts.windowsmarketplace.com/> に掲載されている「Designed for Windows」を参照してください。

## オペレーティングシステムのインストール

次の手順に従って、Sun Fire X4600 シリーズサーバーに Microsoft Windows Server 2003 ソフトウェアをインストールします。

**注** - Sun Fire X4600 シリーズサーバーのブートディスクには、Solaris オペレーティングシステムがプリインストールされています。Windows のインストールによりブートディスクがフォーマットされ、すべてのデータが失われます。

1. 「インストール要件」に記載されているすべての要件を満たしていることを確認します。
2. Sun Fire X4600 シリーズサーバーの電源を再投入します。  
BIOS POST プロセスが開始されます。
3. BIOS POST 画面に「Press F8 for BBS POPUP (BBS ポップアップを表示するには F8 を押します)」というプロンプトが表示されたら、F8 キーを押します。

```
Initializing USB Controllers .. Done.  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)  
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)  
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
```

図 7-1 F8 のプロンプト

BIOS POST プロセスが完了すると、「Boot Device (起動デバイス)」メニューが表示されます。



図 7-2 「Boot Device (起動デバイス)」メニュー

4. Windows ローカルのインストール方法を選択した場合は、ここで CD を挿入します。
5. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューから「CD-ROM」を選択します。

---

**注** – ステップ 6 で Enter キーを押したら、続く手順はすばやく実行する必要があります。手順を続行する前に [ステップ 7](#) および [ステップ 8](#) を読み、作業内容を理解しておいてください。

---

6. Enter キーを押します。
7. 「Press any key to boot from CD (CD から起動するにはいずれかのキーを押します)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。

---

**注** – このプロンプトは 5 秒間表示され、見逃されることがよくあります。このプロンプトを見逃した場合は、システムを再起動し、ステップ 3 に戻る必要があります。

---

Windows セットアップの最初の方で、画面の下部に次のメッセージが表示されます。

Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver.  
(サードパーティー製の SCSI または RAID ドライバをインストールする必要がある場合は、F6 を押してください)

8. F6 キーを押して大容量記憶装置ドライバをインストールします。

---

**注** – このプロンプトは 5 秒間表示され、見逃されることがよくあります。このプロンプトが表示されている間に F6 キーを押さないと、追加のドライバを指定するための画面が表示されず、インストールがエラーになります。この場合は、システムを再起動し、ステップ 3 に戻る必要があります。

---

追加のデバイスを指定するには S キーを押すように指示する画面が表示されます。



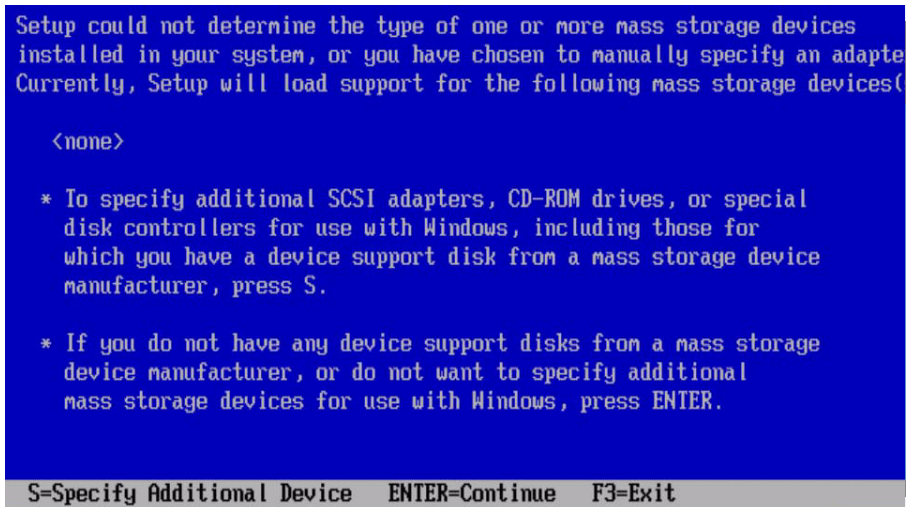


図 7-3 追加デバイスの指定画面

9. 選択した大容量記憶装置ドライバのインストール方法に応じて、大容量記憶装置ドライバにアクセスできることを確認します。
  - フロッピーローカル: Sun Fire X4600 サーバーのフロッピードライブ A で大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクにアクセスできます。
  - フロッピーリモート: JavaRConsole サーバーのフロッピードライブで大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクにアクセスできます。
  - フロッピーイメージ: JavaRConsole システムで floppy.img にアクセスできます。
10. S キーを押して、追加のデバイスを指定します。  
使用可能なドライバのリストが表示されます。

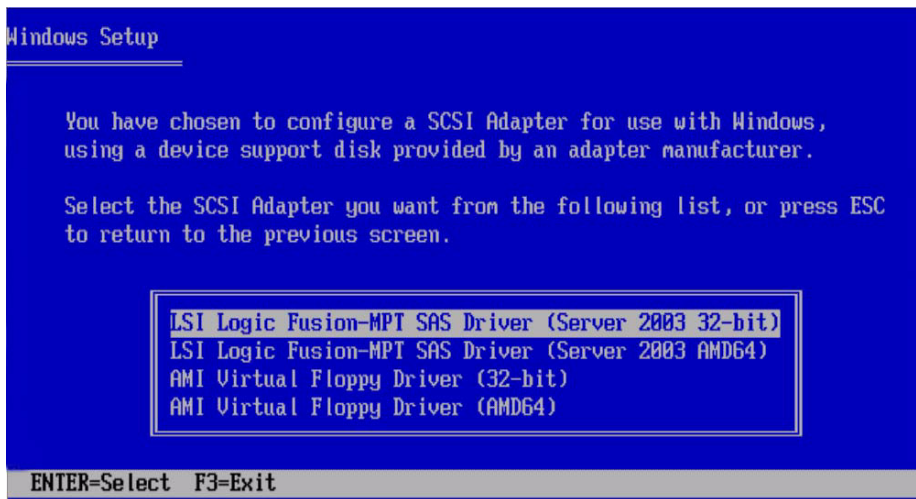


図 7-4 SCSI アダプタの選択画面

11. インストールする Windows のバージョン (Server 2003 32 ビットまたは Server 2003 AMD64) に応じて、適切なバージョンの LSI Logic Fusion-MPT SAS ドライバを選択します。

選択内容を確認し、追加のドライバを選択するための画面が表示されます。



図 7-5 追加デバイスの指定画面

12. フロッピーリモートまたはフロッピーイメージの取得方法を使用して Windows をインストールしている場合は、S キーを押します。これ以外の場合は、Enter キーを押してステップ 14 に進みます。

使用可能なドライバのリストが表示されます。

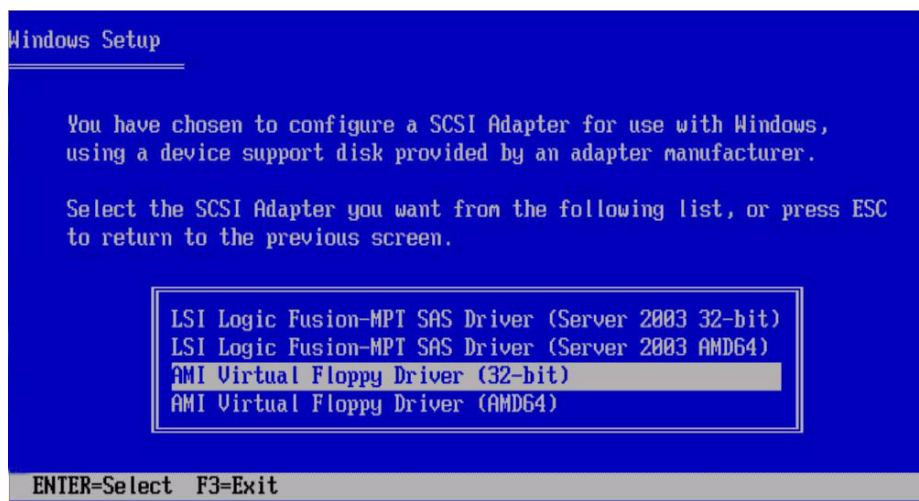


図 7-6 SCSI アダプタの選択画面

13. インストールする Windows のバージョン (32 ビットまたは AMD64) に応じて、適切なバージョンの AMI Virtual Floppy ドライバを選択します。

Windows セットアップで、選択した両方のドライバを示す次の画面が表示されます。

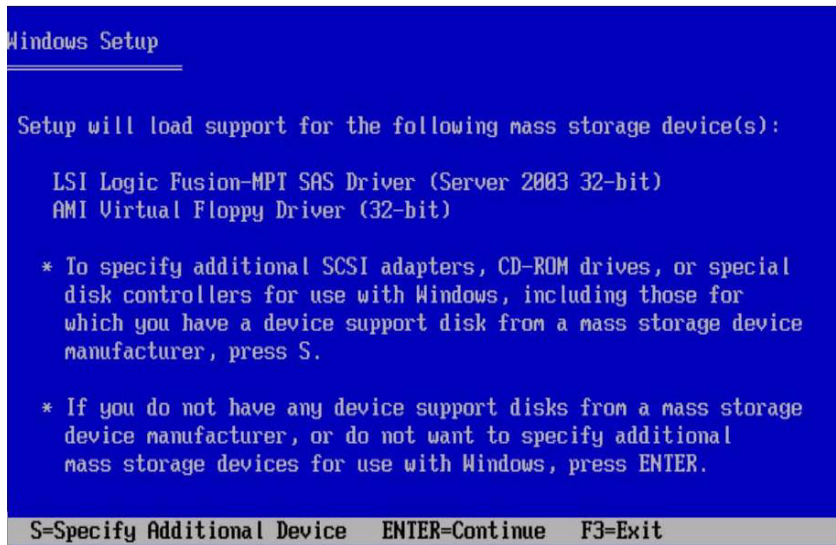


図 7-7 追加デバイスの指定画面

14. Enter キーを押して先へ進みます。

Windows セットアップの起動画面が表示されます。



図 7-8 Windows セットアップの起動画面

15. Enter キーを押して先へ進みます。

Windows セットアップが続行され、「Express Setup (高速セットアップ)」または「Custom Setup (カスタムセットアップ)」を選択するための次の画面が表示されます。

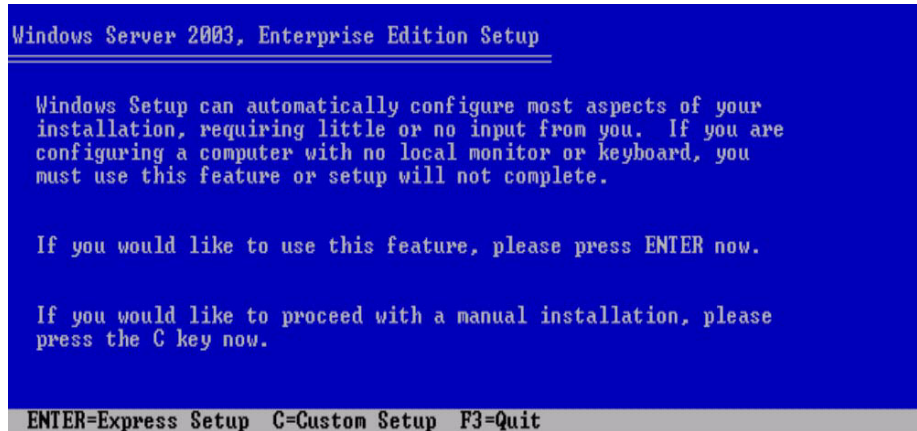


図 7-9 セットアップの選択画面

---

**注** - システムディスクでハードウェア RAID を使用する予定の場合は、「Custom Setup (カスタムセットアップ)」を選択し、手動でディスクのパーティションを行う必要があります。ドライブの最後に、最低限 64M バイトのパーティション分けしていない容量を必ず残しておいてください。

---

16. Enter キーを押して「Express Setup (高速セットアップ)」を選択します。

17. 画面上の指示に従って、Windows Server 2003 のインストールを完了します。

インストール中に、システムがリブートされ、次のメッセージが表示される場合があります。

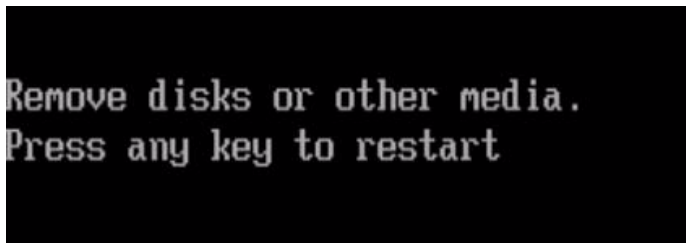


図 7-10 ディスクの取り出しメッセージ

このメッセージが表示された場合は、次の手順に従ってインストールを完了する必要があります。

- a. 選択した大容量記憶装置ドライバの取得方法に応じて、次のいずれかの手順を実行します。
  - **フロッピーローカル**: Sun Fire X4600 サーバーのフロッピードライブからフロッピーディスクを取り出します。
  - **フロッピーリモート**: JavaRConsole サーバーからフロッピーディスクを取り出します。
  - **フロッピーイメージ**: JavaRConsole のデバイスメニューでフロッピーイメージの選択を解除します。
- b. いずれかのキーを押してシステムを再起動し、Windows Server 2003 のインストールを完了します。

18. 「[重要なシステム固有ドライバのアップデート](#)」に進みます。

## 重要なシステム固有ドライバのアップデート

この章は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

この章では、インストール済みの Windows Server 2003 をシステム固有のデバイスドライバソフトウェアでアップデートする方法について説明します。この章には次のセクションがあります。

- 41 ページの「システム固有ドライバのアップデート」
- 50 ページの「AMD プロセッサドライバのアップデート」

この章の手順では、次の準備がすでにできていることを前提としています。

- Sun Fire X4600 シリーズサーバーに Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストール済みであること。
- 7 ページの「サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード」の説明に従って、DriverUpdatePackage.exe をダウンロード済みであること。
- DriverUpdatePackage.exe がすぐに使用できる状態であること。

本書の一部のスクリーンキャプチャには、Sun Fire X4100/X4200 という表示がありますが、特に説明のない限り、これらの画像は Sun Fire X4600 シリーズサーバーにも該当します。

## システム固有ドライバのアップデート

システム固有ドライバをアップデートするには、次の手順に従います。

1. DriverUpdatePackage.exe ファイルを、現在保存されている場所から、Sun Fire X4600 シリーズサーバーのローカルドライブにコピーします。

---

**注** - パッケージ名には、ソフトウェアアップデートパッケージの現バージョンを示すバージョン番号も含まれています。

---

2. DriverUpdatePackage.exe アプリケーションを起動します。

Sun Fire X4600 シリーズドライバアップデートパッケージのセットアップダイアログボックスが表示されます。

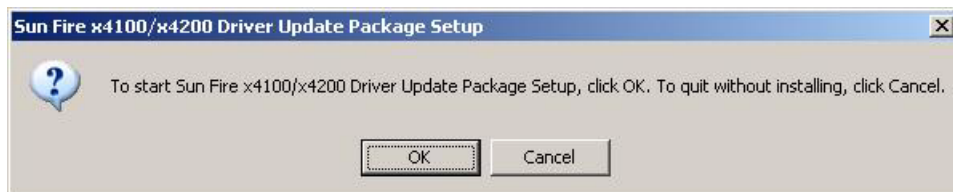


図 8-1      ドライバアップデートパッケージのセットアップダイアログボックス

3. 「OK」をクリックします。

- Windows Server 2003 32 ビット版のドライバをアップデートする場合は、[ステップ 6](#)に進みます。
- Windows Server 2003 64 ビット版のドライバをアップデートする場合は、「Microsoft .NET Framework 1.1」ダイアログボックスが表示されます。

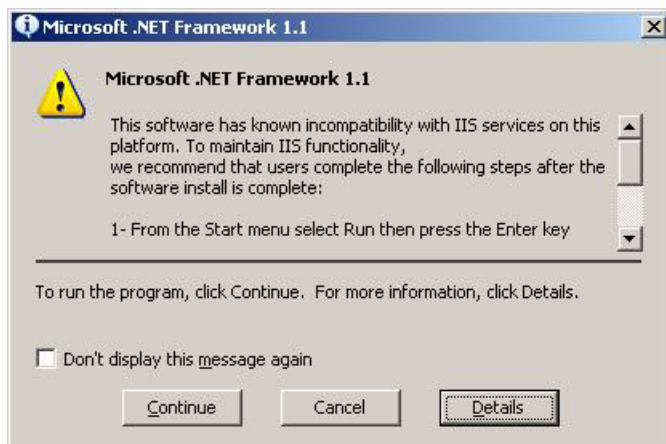


図 8-2      「Microsoft .NET Framework」ダイアログボックス

4. 次の手順に従って、Microsoft .NET をインストールします。

a. 「Continue (続行)」をクリックします。

「License Agreement (使用許諾契約書)」ダイアログボックスが表示されます。





図 8-3 「License Agreement (使用許諾契約書)」 ダイアログボックス

- b. 「I Agree (同意します)」 オプションをクリックし、「Install (インストール)」 をクリックします。

「Installing Components (コンポーネントのインストール)」 ダイアログが表示されます。

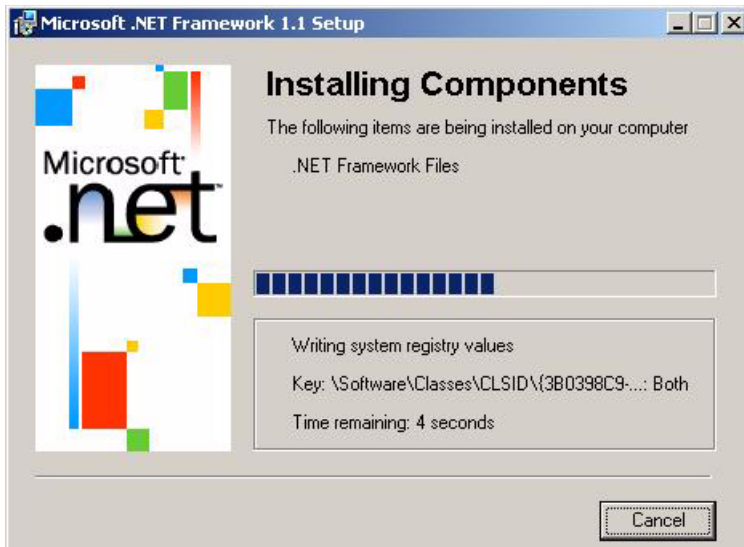


図 8-4 「Installing Components (コンポーネントのインストール)」ダイアログボックス

インストールが完了したら、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。



図 8-5 インストール完了のダイアログボックス

5. 「OK」をクリックします。
6. インストールを続行します。

Sun Fire X4600 シリーズドライバアップデートパッケージのセットアップウィザードダイアログボックスが表示されます。



図 8-6 ドライバアップデートパッケージのセットアップウィザードダイアログボックス

7. 「Next (次へ)」 をクリックします。

「Select Installation Folder (インストールフォルダの選択)」ダイアログボックスが表示されます。

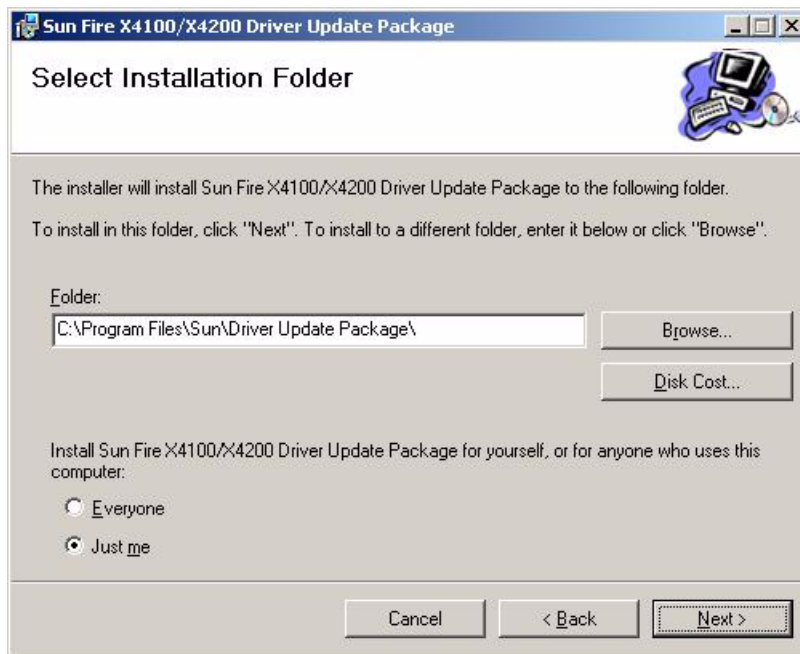


図 8-7 「Select Installation Folder (インストールフォルダの選択)」ダイアログボックス

---

**注** - 64 ビット版のインストールでは、デフォルトのパスは次のとおりです。  
C:\Program Files(x86)\Sun\Driver Update Package\  

---

8. 「Next (次へ)」をクリックして、デフォルト設定を受け入れます。  
「Confirm Installation (インストールの確認)」ダイアログボックスが表示されます。

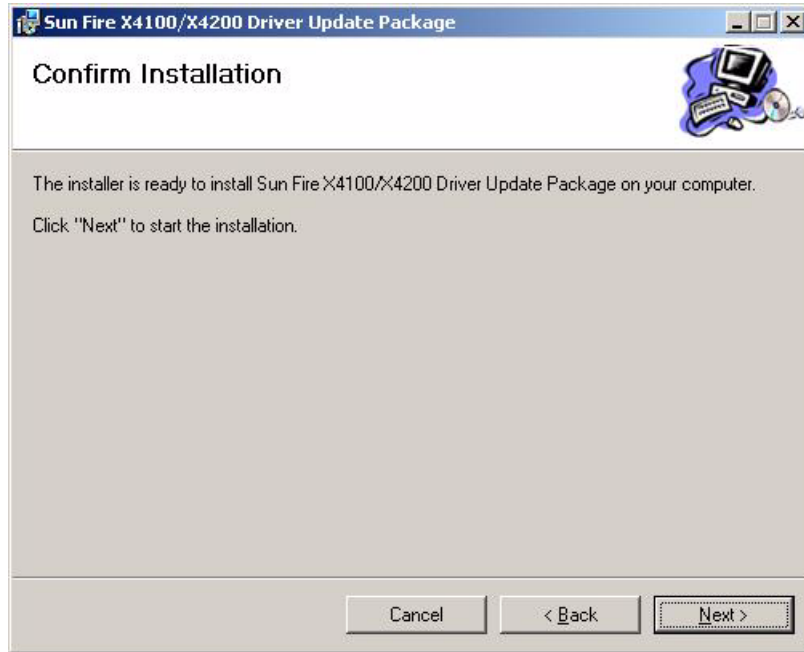


図 8-8 「Confirm Installation (インストールの確認)」ダイアログボックス

9. 「Next (次へ)」をクリックします。

次のダイアログボックスが表示されるまで、インストールが続行されます。



図 8-9 AMD-8131 PCI Express HyperTransport Tunnel ドライバのダイアログボックス

10. 「OK」をクリックします。

「Security Alert (セキュリティ警告)」ダイアログボックスが 4 つ表示されることがあります。

11. それぞれの「Security Alert (セキュリティ警告)」ダイアログボックスで、「Yes (はい)」をクリックします。

Sun Fire X4600 シリーズドライバアップデートパッケージのインストールが完了すると、次のダイアログボックスが表示されます。



図 8-10 ドライバアップデートパッケージ情報のダイアログボックス

---

**注** – ドライバアップデートパッケージのダイアログボックスの手順は、本書に記されています。このダイアログボックスに表示される手順は、読む必要がありません。

---

12. 「Next (次へ)」 をクリックします。

「Installation Complete (インストール完了)」 ダイアログボックスが表示されます。

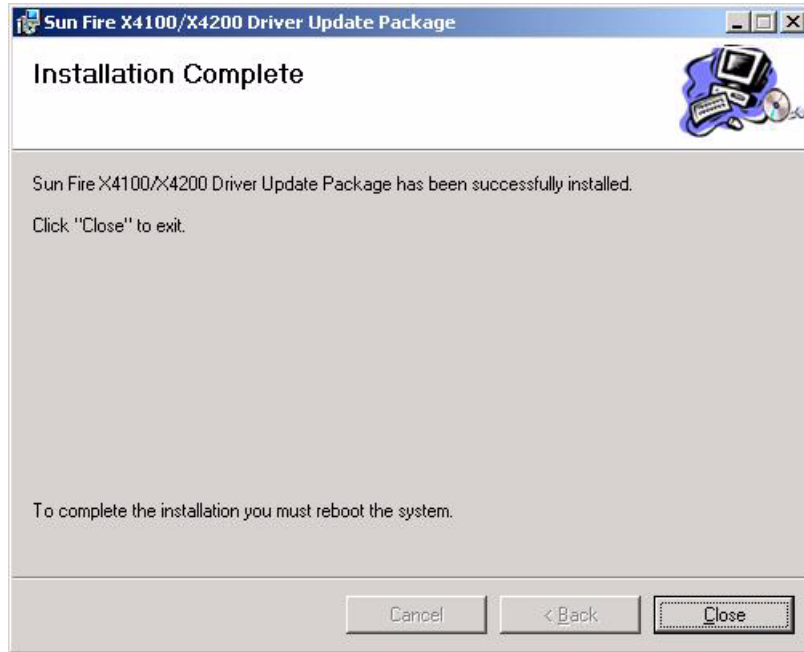


図 8-11 「Installation Complete (インストール完了)」 ダイアログボックス

13. 「Close (閉じる)」 をクリックします。

「Setup Succeeded (セットアップ成功)」 ダイアログボックスが表示されます。



図 8-12 「Setup Succeeded (セットアップ成功)」 ダイアログボックス

14. 「OK」 をクリックして、「AMD プロセッサドライバのアップデート」に進みます。

# AMD プロセッサドライバのアップデート

AMD プロセッサドライバをアップデートするには、次の手順に従います。

1. 「デバイスマネージャ」を開きます。
  - a. Windows デスクトップタスクツールバーの「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。
  - b. 「コントロールパネル」で、「システム」アイコンをダブルクリックします。
  - c. 「システムのプロパティ」ダイアログボックスで、「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
2. 「デバイスマネージャ」で、「プロセッサ」リストを展開します。

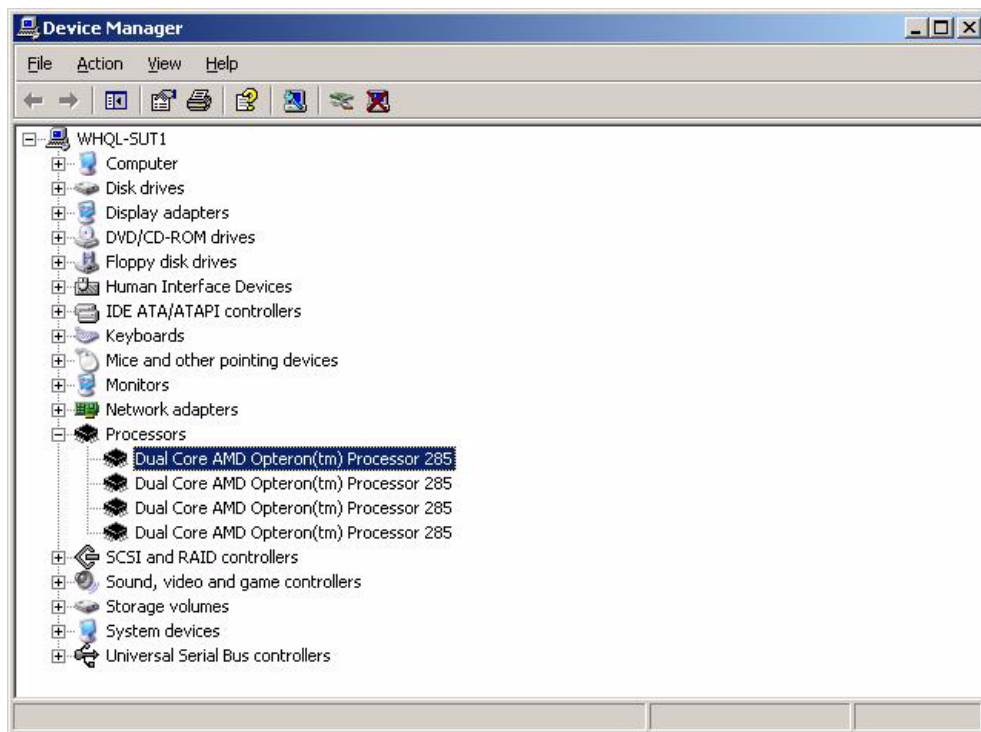


図 8-13 「プロセッサ」が展開された状態の「デバイスマネージャ」ウィンドウ



3. リストの一番目のプロセッサを右クリックし、ショートカットメニューから「ドライバの更新」を選択します。

「ハードウェアの更新ウィザードの開始」ダイアログボックスが表示されます。



図 8-14 「ハードウェアの更新ウィザードの開始」ダイアログボックス

4. 「いいえ、今回は接続しません」オプションを選択し、「次へ」をクリックします。  
「ハードウェアの更新ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

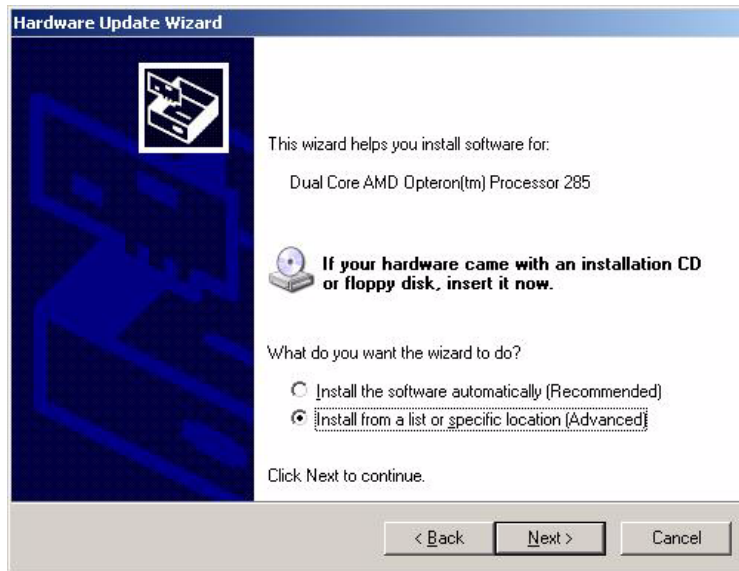


図 8-15 「ハードウェアの更新ウィザード」ダイアログボックス

5. 「一覧または特定の場所からインストールする」オプションをクリックし、「次へ」をクリックします。

「ハードウェアの更新ウィザード」ダイアログボックスが表示され、検索とインストールのオプションを選択する画面が表示されます。

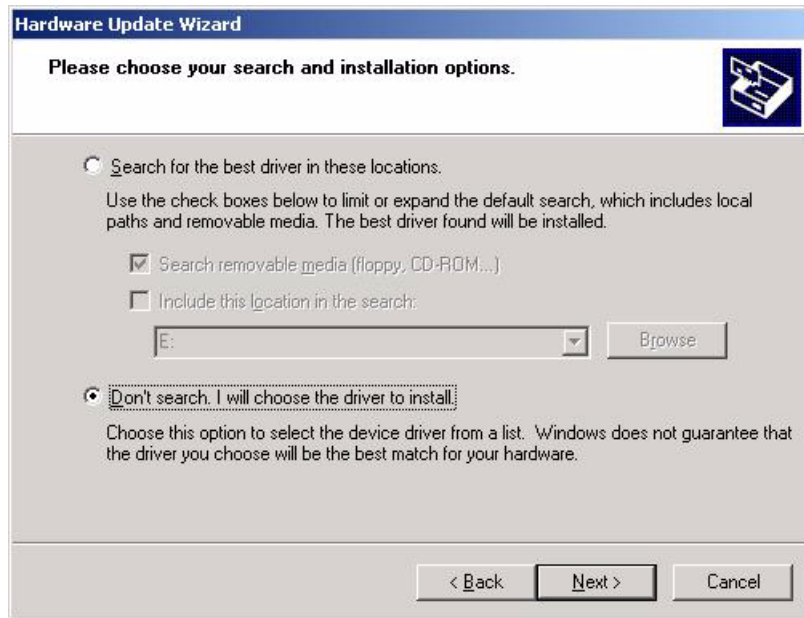


図 8-16 「ハードウェアの更新ウィザード」の検索オプションのダイアログボックス

6. 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」オプションをクリックし、「次へ」をクリックします。  
「ハードウェアの更新ウィザード」ダイアログボックスが表示され、インストールするデバイスドライバを選択するように指示されます。



図 8-17 「ハードウェアの更新ウィザード」のドライバ選択のダイアログボックス

7. 「ディスク使用」をクリックします。

「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。

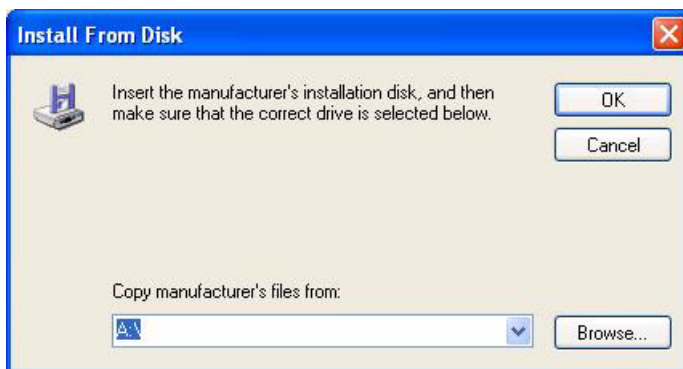


図 8-18 「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックス

8. 「参照」をクリックします。

「ファイルの場所」ダイアログボックスが表示されます。

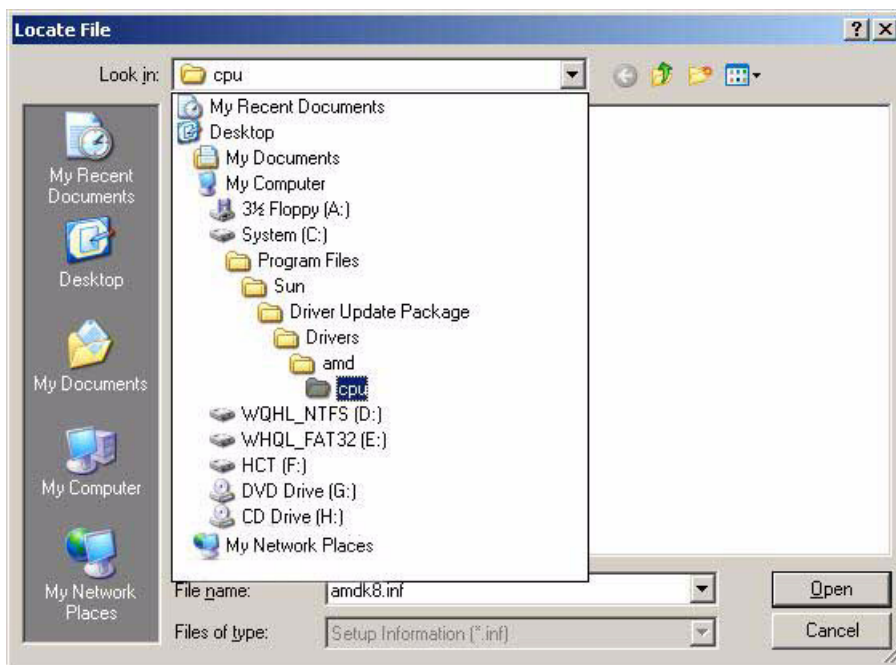


図 8-19 「ファイルの場所」ダイアログボックス

9. AMD プロセッサドライバのある場所まで移動し、「開く」をクリックします。<sup>1</sup>  
ドライブのパスを表示する、「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。



図 8-20 「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックス

1. 図 8-7 のデフォルトのインストールフォルダを受け入れた場合、AMDCPU の場所は次のようになります。  
C: \Program Files \Sun \DriverUpdatePackage \Drivers \AMD \CPU (32 ビット版)  
C: \Program Files(x86) \Sun \DriverUpdatePackage \Drivers \AMD \CPU (64 ビット版)

10. 「OK」をクリックします。

デバイスドライバ選択のダイアログボックスが、「モデル」リストに「AMD K8 Processor」が入った状態で表示されます。



図 8-21 デバイスドライバ選択のダイアログボックス

11. 「AMD K8 Processor」を選択し、「次へ」をクリックします。

「ハードウェアの更新ウィザードの完了」ダイアログボックスが表示されます。



図 8-22 「ハードウェアの更新ウィザードの完了」ダイアログボックス

12. 「完了」をクリックします。

「システム設定の変更」ダイアログボックスが表示されます。

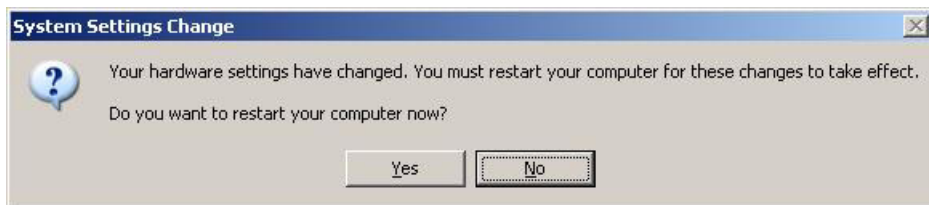


図 8-23 「システム設定の変更」ダイアログボックス

13. 「いいえ」をクリックします。

すべての AMD プロセッサドライバをアップデートする必要があります。すべての AMD プロセッサのドライバがアップデートされるまで、コンピュータを再起動する必要はありません。すべてのドライバがアップデートされるまで、次の手順を続行します。

14. 「デバイスマネージャ」を開き、「プロセッサ」リストを展開します。

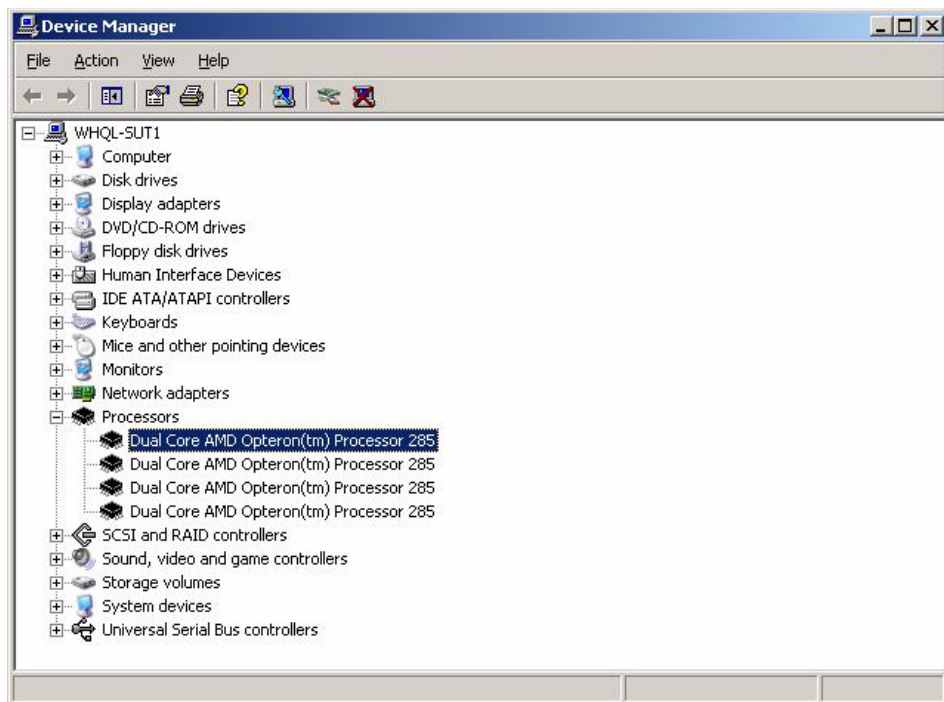


図 8-24 「プロセッサ」が展開された状態の「デバイスマネージャ」ウィンドウ

---

**注** – すでにアップデートされたドライバはハイライトされています。

---

15. リストから次のプロセッサを選択します。
16. 選択したプロセッサを右クリックし、ショートカットメニューから「ドライバの更新」を選択します。  
「ハードウェアの更新ウィザードの開始」ダイアログボックスが表示されます。





図 8-25 「ハードウェアの更新ウィザードの開始」ダイアログボックス

17. 「いいえ、今回は接続しません」オプションをクリックし、「次へ」をクリックします。

「ハードウェアの更新ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

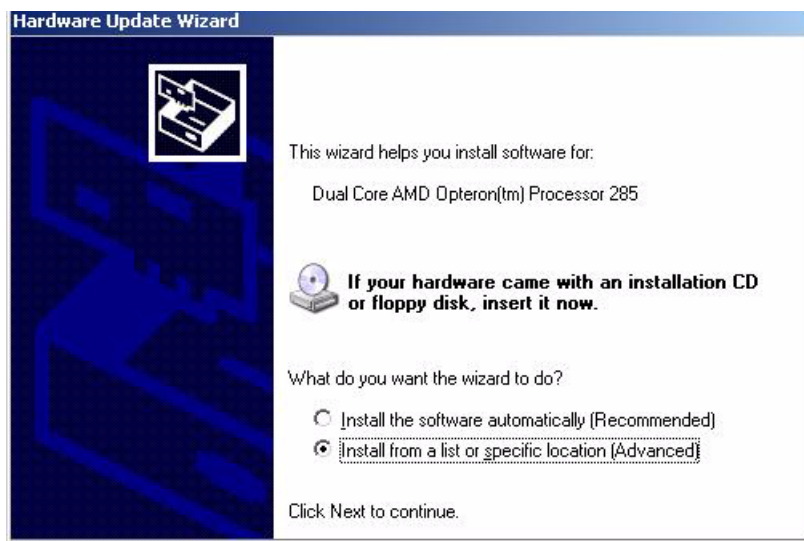


図 8-26 「ハードウェアの更新ウィザード」ダイアログボックス

18. 「一覧または特定の場所からインストールする」オプションをクリックし、「次へ」をクリックします。

「ハードウェアの更新ウィザード」ダイアログボックスが表示され、検索とインストールのオプションを選択する画面が表示されます。

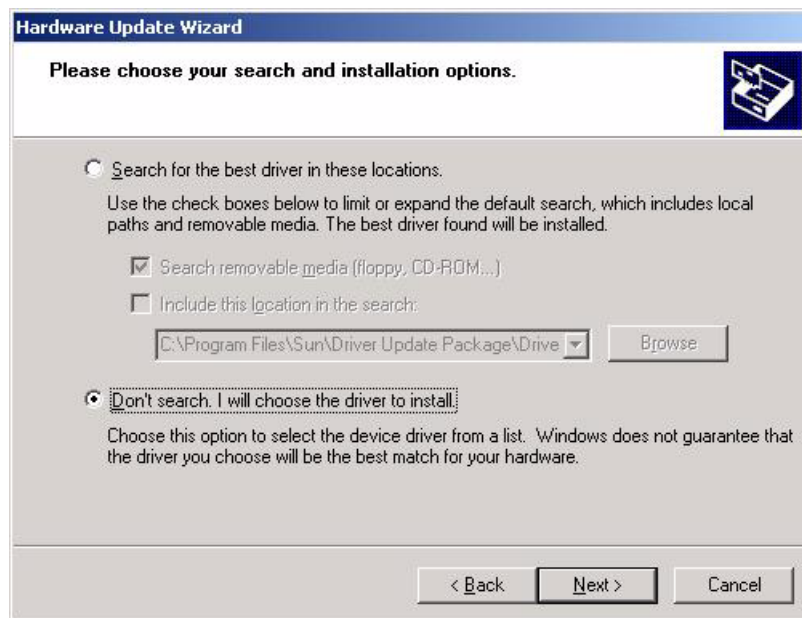


図 8-27 「ハードウェアの更新ウィザード」の検索オプションのダイアログボックス

19. 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」オプションをクリックし、「次へ」をクリックします。

「ハードウェアの更新ウィザード」ダイアログボックスが表示され、インストールするデバイスドライバを選択するように指示されます。

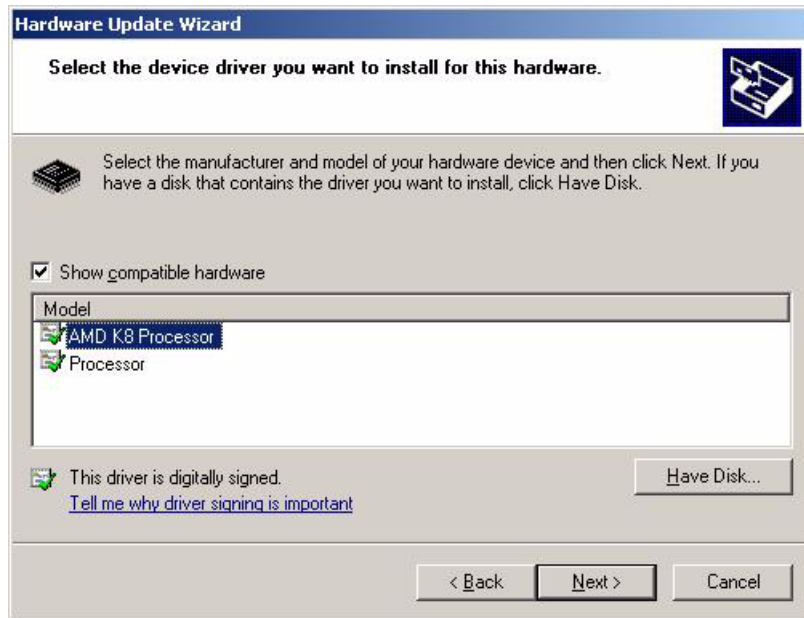


図 8-28 「ハードウェアの更新ウィザード」のドライバ選択のダイアログボックス

20. 「AMD K8 Processor」を選択し、「次へ」をクリックします。  
「ハードウェアの更新ウィザードの完了」ダイアログボックスが表示されます。



図 8-29 「ハードウェアの更新ウィザードの完了」 ダイアログボックス

21. 「完了」 をクリックします。

「システム設定の変更」 ダイアログボックスが表示され、コンピュータを再起動するように指示されます。

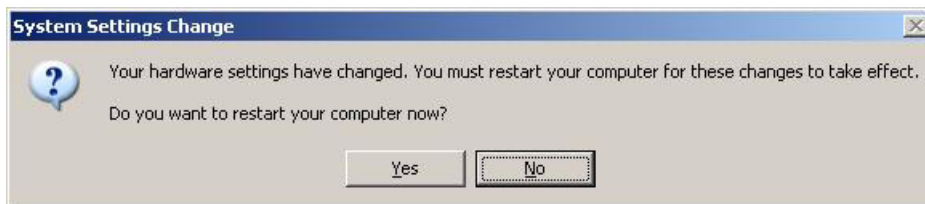


図 8-30 「システム設定の変更」 ダイアログボックス

22. 次の手順のいずれかに従います。

- アップデートする AMD プロセッサドライバがまだほかにある場合は、「いいえ」をクリックして、ステップ 14 からステップ 21 までを繰り返します。
- すべての AMD プロセッサドライバをインストールしたら、「はい」をクリックして、システムを再起動します。

---

**注** - システムドライバをすべてインストールしたあとは、「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」を使用して、Sun Fire X4600 シリーズドライバアップデートパッケージプログラムをシステムから削除することができます。

---

これで、Sun Fire X4600 シリーズサーバーへの、Windows Server 2003 オペレーティングシステムおよびドライバのインストールに必要な手順をすべて完了したことになります。



## RIS イメージへの Sun Fire ドライバの組み込み

この章は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

この章は、Sun Fire X4600 シリーズサーバーのドライバパッケージをリモートインストールサービス (RIS) イメージに組み込む必要がある、上級のシステム管理者を対象としています。

この章は、RIS のチュートリアルではありません。Sun Fire X4600 サーバー固有のドライバを RIS イメージに組み込む方法のガイダンスです。

## 必要なドライバの確認

表 9-1 に、Sun Fire X4600 シリーズサーバーの RIS イメージに組み込む必要があるサーバー固有のドライバを示します。

表 9-1 Sun Fire X4600 シリーズサーバー RIS に必要なサーバー固有ドライバ

デバイス	32 ビット版 Windows Server 2003 に必要	64 ビット版 Windows Server 2003 に必要
AMD-8132 HyperTransport IOAPIC コントローラ	はい	はい
AMD K8 プロセッサ	はい	はい
AMI 仮想フロッピー	はい	はい
LSI 1064 HBA	はい	はい

表 9-1 Sun Fire X4600 シリーズサーバー RIS に必要なサーバー固有ドライバ (続き)

NVIDIA nForce PCI System Management	はい	はい
NVIDIA nForce4 HyperTransport ブリッジ	はい	はい
NVIDIA nForce4 LPC コントローラ	はい	いいえ

## RIS イメージへのドライバの追加

次の手順では、RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir\_name\Arch は、ドライバが追加される、RIS サーバー上にあるイメージを指します。

- Language はインストールされているオペレーティングシステムの言語です (English など)。
- Dir\_name は RIS イメージがインストールされているディレクトリです。
- Arch は、32 ビット版イメージでは i386、64 ビット版イメージでは amd64 になります。

次の手順では、RIS イメージにドライバを組み込む方法について説明します。

RIS イメージにドライバを追加するには、次の手順に従います。

1. RIS イメージの、RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir\_name\Arch フォルダと同じ階層に、\$OEM\$ フォルダを作成します。
2. \$OEM\$ フォルダに、Sun\Drivers フォルダを作成します。
3. ディレクトリ構造が維持されるように注意しながら、DriverPack.zip のコンテンツを一時的な保存場所に展開します。
4. RIS イメージのアーキテクチャー (Arch) に基づき、一時的な保存場所から、32 ビットフォルダまたは 64 ビットフォルダのコンテンツを RIS イメージの \$OEM\$\Sun\Drivers フォルダにコピーします。  
i386 には 32 ビットフォルダ、amd64 には 64 ビットフォルダを使用します。
5. \$OEM\$\Sun\Drivers\lsi\lsi\_sas.sys ファイルを RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir\_name\Arch フォルダにコピーします。
6. RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir\_name\Arch\txtsetup.sif ファイルで、次のテキストを可視テキストの終わりに追加します。

```
[SourceDisksFiles]
lsi_sas.sys = 1,,,,,3,4,1
```



```
HardwareIdsDatabase]
PCI\VEN_1000&DEV_0050 = "lsi_sas"
PCI\VEN_1000&DEV_0054 = "lsi_sas"
PCI\VEN_1000&DEV_005E = "lsi_sas"

[SCSI.load]
lsi_sas = lsi_sas.sys,4

[SCSI]
lsi_sas = "LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver (Server 2003
32-bit)"
```

7. インストールに使用する .sif ファイルに、次の変更<sup>1</sup>を加えます。

- 32 ビット版イメージの場合

```
[Unattended]
OemPreinstall = yes

OemPnpDriversPath=Åg\Sun\Drivers\amd\8111\hpet;
\Sun\Drivers\amd\8131\ioapic;
\Sun\Drivers\amd\8131\pcix;\Sun\Drivers\ami;
\Sun\Drivers\lsiÅh
```

---

**注** - 32 ビット AMD K8 プロセッサのドライバは、OemPnpDriversPath 方法ではインストールが不可能で、手作業でインストールする必要があります。ドライバの手動インストールについての詳細は、[第 8 章](#)を参照してください。

---

- 64 ビット版イメージの場合

```
[Unattended]
OemPreinstall = yes

OemPnpDriversPath=Åg\Sun\Drivers\amd\8131\pcix;
\Sun\Drivers\amd\cpu;\Sun\Drivers\ami;
\Sun\Drivers\lsiÅh
```

8. RIS サーバーでリモートインストールサービス (BINLSVC) を停止してから、開始します。これを行うには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、各コマンドの入力後に Enter キーを押します。

```
> net stop binlsvc
> net start binlsvc
```

---

1. 読みやすいように、OemPnpDriversPath 情報は複数行に分けて表示しています。この情報は、1 行に入力する必要があります。



# 索引

---

## A

AMD ドライバ  
アップデート 50

## J

JavaRConsole  
システムの設定 25  
システムの要件 26  
セットアップ手順 26  
JavaRConsole システムの設定 25

## S

Sun Fire X4600 シリーズサーバー  
ドキュメントへのアクセス xi  
プラットフォームに関する注意事項 4

## W

Windows インストールの準備 1  
Windows のメディア  
CD-ROM のリダイレクト 30  
CD イメージのリダイレクト 30  
インストールの準備 11

## い

イメージファイル  
Linux または Solaris での作成 22  
Windows での作成 21  
インストール手順の概要 5

## お

オペレーティングシステムのインストール  
Windows のメディアの準備 11  
ガイドライン 2  
概要 1  
大容量記憶装置ドライバの取得 13  
大容量記憶装置ドライバの準備 10  
手順 32  
手順の概要 5  
要件 31

## か

ガイドライン、オペレーティングシステムのインストール 2

## さ

サーバー固有のドライバパッケージの  
ダウンロード 7  
サポートされている Windows のバージョン 3

## し

システム固有ドライバ  
アップデート 41

## た

大容量記憶装置ドライバ  
イメージファイルのコピー 20  
Linux または Solaris の使用 22  
Windows の使用 21  
インストールの準備 10

取得の準備 13  
フロッピーイメージのリダイレクト 30  
フロッピーディスクの作成 13  
    Linux または Solaris の使用 18  
    Windows での手動作成 17  
    Windows での自動作成 15  
    Windows の使用 14  
フロッピーディスクのリダイレクト 30

## つ

ツールとドライバの CD 4

## て

手順、オペレーティングシステムのインストール  
32

## と

ドキュメント  
    アクセス xi  
    フィードバック xiii

### ドライバ

AMD ドライバのアップデート 50  
システム固有ドライバのアップデート 41  
大容量記憶装置ドライバ  
    取得の準備 13  
    取得方法の選択 9  
    ダウンロードサイト 7  
    ダウンロード手順 7  
ドライバのアップデート 41

## ひ

表記上の規則 xiii

## ふ

フロッピーディスクの作成  
    Linux または Solaris の使用 18  
    Windows での手動作成 17  
    Windows での自動作成 15  
    Windows の使用 14  
フロッピーディスクの作成、大容量記憶装置  
    ドライバ 13  
プラットフォームに関する注意事項 4

## よ

要件、オペレーティングシステムの  
インストール 31

## り

リソース CD 4  
リモートインストールサービス (RIS)  
    ドライバの概要 65  
    ドライバの追加 66  
    必要なドライバ 65